

# 新規就農者による取組事例 [神奈川県相模原市]

## 1. 地域農業の状況

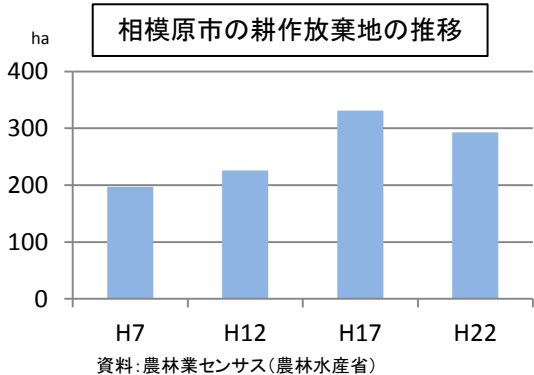
○ 相模原市は、神奈川県北部に位置し、市の東部地域は相模川と境川の間に広がる相模野台地、市の西部地域は相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖のほか、相模川とその支流の道志川が流れ、県の水源地となっている。



○ 東部はその立地条件を生かした畑作や畜産が行われ、特産のヤマトイモを中心に葉根菜類の栽培が盛んである。西部は、酪農や中山間地型の小規模な畑作や茶業による農業生産が展開されている。

○ 耕地面積は1,640haで、水田は125ha、畑は1,510haあるが、市の西部の山間地域をはじめとして高齢化や農業後継者不足、鳥獣被害により耕作放棄地が、近年、増加傾向にある。

○ 耕作放棄地の解消を図るため、農業委員会や農協などの関係機関の代表者により構成する「相模原市耕作放棄地対策協議会」を通じて、耕作放棄地の再生利用を促進し、再生後の農地を新たな担い手につなげる耕作放棄地再生利用事業を進めている。



## 2. 耕作放棄地再生利用の取組

|      |        |
|------|--------|
| 取組主体 | 農業者    |
| 再生面積 | 0.54ha |
| 作付作物 | 露地野菜など |

|      |              |
|------|--------------|
| 地区名  | 寸沢嵐地区及び青野原地区 |
| 取組年次 | 平成23年～       |
| 販路   | 直売等          |

### (1) 寸沢嵐(すわらし)地区の取組み

○ 農産物の生産・加工・販売を一体的に行う「農業の6次産業化」を展開する青年就農者が約0.42haの耕作放棄地を借り受けた。バラやサフランなどのエディブル(食用)フラワーを栽培。



○ 周辺は、道志川に面した津久井地域で唯一のまとまった面積の水田が残っており、再生した農地は、周囲から見渡すことができる丘の上にあるため、農地として利用を再開することにより、良好な田園風景の保全にもつながっている。

### (2) 青野原(あおのはら)地区の取組み

○ トマトや露地野菜を栽培する青年就農者が約0.12haの耕作放棄地を借り受けた。再生農地では、市内量販店等に直接出荷するブロッコリー、ナバナ、のらぼう菜など葉物野菜を栽培。



○ 長期間耕作されていなかったため、地力向上や透水性の改善を目的に、マメ科「ヘアリーベッチ」を栽培し、緑肥による土づくりを行った。

#### 活用した支援策

H23～25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国) (土壌改良、農業機械)